



尾崎 寿昭

■有限会社 尾崎建設

建築士会 八代支部青年部会長

八代支部創立 60 周年記念事業を終えて

八代支部は昨年に支部設立 60 周年を迎え、これを記念しまして平成 29 年 2 月 3 日に熊本高等専門学校八代キャンパスを会場に「明日の建築を考える～震災から学んだこと～」と題し、伊東豊雄様をお招きして講演会を開催しました。

高専生や一般参加者等を含め 118 名の参加がありました。

アートポリス事業で東日本大震災の被災地に建築した「みんなの家」等の経験が、熊本地震の被災地での「みんなの家」や仮設住宅の生活環境の改善につながったことや、伊東氏が 47 歳の時に、初めてチャレンジした公共建築である、八代市立博物館の設計時のお話など、凝縮されたあつという間の 2 時間でした。

高専生からの「設計するときが一番大事にされていることは何ですか？」という問いに対し「その

地域の人と話し合うというのが一番重要で、使う人たちが何を考えてどういうものを望んでいるか、使いたい人にとって望ましいものであるかどうか、プロポの際は、できるだけフレキシブルにしておいて、話し合いをしながら設計するようにしている。」と返答されていたのが印象的でした。今回の記念講演が次世代の建築を目指す若者の一助になればと思います。



それから 1 週間後の 2 月 10 日に記念式典 (61 名参加) と祝賀会 (71 名参加)、3 月 11 日にゴルフコンペを開催しました。

記念式典では、八代支部 60 周年の歩みスライド上映があり、先輩方の懐かしの若かりし頃の写真を見ながら、これまでの活動を振り返りました。ちょうど 10 年ほど前、建築士の集いが八代で開催されたときに発足したカップ隊の写真もありました。今では、球磨川まつりで恒例のカップ隊となりカップ仮装大賞など受賞しています。

その他、功労者表彰・アピール宣言等も行いました。

祝賀会では、アトラクションに熊本を代表する芸人やうちブラザーとやつしろカップ隊によるコラボショーが行われ会場を盛り上げました。

八代支部では 60 周年記念事業成功を目標に約半年前から実行委員会を発足し 6 委員会を設置して各委員長はじめ委員の積極的な活動のおかげで今回の事業を成功させることが出来ました。



今年度は、恒例行事の他に八代支部青年部主催で 9 月 30 日に「被災度区分判定調査セミナー」を開催しました。今後の地震に備えて、実際に被災した旧市庁舎で被災状況を見ながらその調査方法を学ぶよい機会となりました。

また、来年開催予定の建築士の集い熊本大会に向けて、八代支部は第 1 分科会を担当することになりました。大会の成功に向けて、楽しみながら準備を行い、一緒に盛り上げていきたいと思っています。

最後に、八代支部はいつ、どんな時も一致団結し行動できるような集まりでありたいと思います。



友永 博光

■株式会社 産紘設計

復興祈願 神楽舞台落成式

7月初旬、益城町テクノ団地に神楽舞台が建築士会（主に山鹿支部の方々）により建築されました。

私も、総務委員会・青年部会として前日の建て方から参加しました。特に役に立つようなことはしていません。準備や作業で主導的に係わられた山鹿支部をはじめ多くの方々には大変恐縮ではありますが、落成式と前日の建て方について御報告いたします。

6月中旬に、事業について総務委員長から総務委員に応援の要請がありました。「なぜ、益城テクノ団地に仮設の神楽舞台をつくることになったのか？」それすら理解していないままとりあえず7月8日の8時に言われた場所に行くことになりました。当然、何をするのかもわかりません。

7月8日は建て方を行う予定です。雨が降りそうな朝でした。土曜日ということや家庭の事情もあり長男（4歳）をつれていきました。

「どのような人が来るのか」、「なにをすればいいのか」、不安な気持ちでテクノ団地を歩きました。

現場につくと、もう山鹿支部の方が準備を始めていました。



知らない人ばかりかと思っていましたが、青年部の方をはじめ知り合いの方々も多く安心しました。

私が所属する総務委員会はまだ誰もきていません。とりあえず、山鹿支部の方に何か手伝うことは無いかと聞いて、ボルトに座金を入れる作業を行うことになりました。私の父も棟梁だったので手慣れた作業でした。私が座金を入れ、長男がナットを入れるといった感じで、二人で作業を行いました。

そのころ、山鹿支部をはじめとする大工・棟梁の方々はまだ建て方に入っています。



私も少し手伝いましたが、あまり役に建てず邪魔になってしまいました。さすが大工さんたちは手際がよく、あっという間に地組し立ち上っていきます。



詳しいことはわかりませんが、一般的な木造住宅とはことなり、伝統的な組み方です。まず布基礎がありません。土台がなく礎石に柱がのっています。伝統的な工法は仮設建物で優れた利点があると感じました。どんどん組み上がり、昼前には軸組は出来上がりました。

午後から野地板・床板貼りが行われます。作業は急ピッチで行われていました。明日の午後には落成式の予定になっています。雨も降りましたがどんどん作業は進んでいきました。



私たち親子は座金入れのあとは、明日のためにテントを張りました。

テントを張るころには青年部、総務委員とよくみる顔ぶれとなっていました。時々スコールのような雨が降る日でした。テントの準備をして弁当を食べて今日の作業は終わりです。舞台の工事はまだまだ行われています。

翌9日は落成式の予定です。神楽舞台は、細かな部分の作業が続いています。昨日よりさらに天気は悪く朝から雨です。時折激しい雨がふります。落成式は午後からですが、行えるかどうかかわからないくらい激しい雨がふる日でした。

このような天気の中、舞台は着々と出来上がっていききました。



総務委員会・青年部は、落成式の準備を行いました。建築士会以外の団体が、キッチンカーでの食事

サービス 100 食分のカレーを作るということで、少しだけ手伝いです。激しい雨が降っていましたが、昼前には雨も上がりました。あの雨からの奇跡の天候回復です。

そのころには、神楽舞台は瓦の一部を除きできあがっていました。作業を行った山鹿支部をはじめとする大工・棟梁の方の作業の速さとチームワークは素晴らしいものでした。雨のなかで大変な作業でしたが、予定通り落成式を行えます。私たちもキッチンカーのカレーを頂き、昼から落成式です。



落成式は、地元益城町の神楽や餅投げなどが行われました。正直来る人は少ないのではないかと思っていました。テクノ団地から多くの人が集まりました。



「なぜ、神楽舞台をつくることになった？」ですが、もともとあった舞台が地震で被害をうけ、その代わりになる舞台を建てるという目的だったようです。子供が踊る神楽や神楽をみる人たちを見ると神楽舞台が大事なものであることが解ります。この舞台は仮設ではありますが、建設を企画から準備、作業された方々のご尽力に感銘を受けました。グラウンドの横でもあり、神楽以外でも多くの方に利用されることと思います。

最後に、今回は親子での参加でした。私が子供のころは、大工である父の現場について行って、よく遊んでいました。現在では安全面などの理由で子供たちが工事現場の中で見る機会は殆どありません。今回、長男は大工さん、クレーンの運転士さんなど興味をもつ職業を見られて大満足のようでした。また、多くの方に可愛がっていただき、笹舟のつくり方などを習っていました。家族をはじめより多くの人に建築士会の活動を理解してもらえればと思います。

TOPICS 情報

平成30年 新年会のお知らせ

日時：平成30年1月12日（金） 17:30～

場所：KKRホテル熊本



丹伊田 量

■有限会社ロゴス設計同人

平成29年度「建築士の集い」福岡大会（久留米）を終えて

九州ブロック研究集会「建築士の集い」福岡大会が久留米シティプラザにて開催されました。総勢500名を超える建築士が集まりました。熊本からは約60名が参加しました。



開会式の様子

■「建築士の集い」とは

九州各県の建築士が、各々の地域での実践活動の報告をする研究集会です。実践活動は、地域を巻き込んだワークショップやまちづく

りなど、多種多様な活動のことで。そして投票で順位を決めて、1位となった県が全国大会へ進むといった流れになっています。今回の熊本県の発表は、青年部で手掛けたアートポリス事業の「みんなの家」でした。仮設住民とのワークショップを重ねて造った、本のある集会所の経緯を発表させていただきました。結果は3位でしたが、設計を通して住民の方々と心を通わせて造る大切さが伝わったと思います。



地域実践活動発表「みんなの本の家」

■地域実践活動発表後の分科会

発表が終わると分科会に移ります。例年3～4の分科会が用意されています。福岡大会ではテーブルディスカッション、伝統技術ワークショップ、町並み散策でした。

① 第1分科会

第1分科会は地域実践活動報告の続きです。各県の発表者が8テーブルに分かれてのテーブルディスカッションとなります。発表の内容の質疑応答など、より掘り下げた討論が行われます。熊本のテ

ーブルでは発表時間では収まりきれなかった「みんなの家」に対する思いなども話しました。



第1分科会、地域実践活動テーブル討議

② 第2～4分科会

その他の分科会は、坂茂さんを迎えたテーブルディスカッション、筑後川流域の伝統技術ワークショップ、八女福島白壁の町並み散策が行われました。どれも充実した魅力的な内容となっております。



第2分科会、テーブルディスカッション



第3分科会、伝統工芸大川組子

平成30年建築士の集い「熊本大会」へ向けてのお願い

平成30年6月に熊本で集いが開催されます。青年部会・女性部会を中心に準備を進めています。開催まで多くのスタッフが必要です。皆様のご参加・ご協力をよろしくお願いします。

**建築士の集い熊本大会のスタッフを募集しています。
皆様のご協力よろしくお願いします。**



第4分科会、八女福島白壁の町並み

■平成30年「建築士の集い」熊本大会について

平成30年6月23日(土)にくまもと森都心プラザにて「建築士の集い」熊本大会が開催されます。田中青年部会長を中心として実行委員会を立ち上げ、少しずつですが着実に準備を進めています。



毎月1回行われる実行委員会の様子

■熊本大会テーマ

開催日は熊本地震から2年後となります。復興が進んで行く状況の中、今後も起こりうる災害のために何が必要なのかを学び、考える大会にしたいと考えています。

■実行委員会の進捗状況

毎月1回の実行委員会では熊本大会に向けて活発な意見が交換さ

れています。

① 第1分科会について

例年通りに地域実践活動報告のテーブル討議を行います。総合司会、各テーブルのコーディネーターの手配、必要備品の把握など八代支部を中心にして準備しています。

② 第2分科会について

熊本地震後に行った活動のディスカッションになります。まだ未定の部分もありますが、建築業界の活動の話だけではなく、復興を軸にした様々な業種の方々を招き、意見を交換していただきます。各方面の活動の情報を共有し、復興に向けて建築士として出来ることを考えられればと思っています。

③ 第3分科会について

くまもと城下町めぐりとして古町を散策します。震災直後の被災建物の写真、被災マップ等の資料を作り、熊本城築城当時の町割りや、歴史的建造物や寺院が、震災からどのように変化したかを感じてもらいます。



震災直後の古町

④ 意見交換会

会場は復旧中の熊本城に一番近いホテル「KKR ホテル熊本」となります。まだまだ未定な部分もありますが、余興なども取り入れて元気な熊本を魅せられればと思っております。熊本の地酒や焼酎を多数用意する予定です。また、他県の建築士とざっくばらんに交流できる良い機会ですから、集いに参加出来なかった方でも気軽に参加していただけると幸いです。



久留米大会の様子

⑤ エクスカーション

大会翌日にはエクスカーションも予定しております。他県の方々のみならず、熊本の会員も参加したいであろう企画です。ただ、正式に決まっていませんので、発表はまだ後からになります。決まり次第速やかに報告させていただきます。

■実行委員会からのお願い

熊本大会を成功させるためには、熊本県建築士会みなさまのご協力が必要です。震災後で何かと忙しいとは思いますが、どうぞよろしくお願い致します。



永井晶子

ノルドデザイン有限会社代表

地震のあと

熊本地震から1年半経ち、復旧復興へ様々な活動が続いています。

女性部会でも一致団結して支援の輪を大きく広げているところです。まず、「女性建築士による住まいの無料相談会」。18年前から定期的に開催していますが（鶴屋本館5F インテリアコーナー／毎月第4土曜日 13:00～16:00）周知とはいえませんでした。しかし、今こそ必ず役立つ活動だと確信し、積極的にPRを始めました。被害を受けた市町村や仮設団地へポスターやチラシの配布をメンバーで手分けして行っています。一人でも多くの相談を受けたいと思います。



7/30 出張相談会（御船町役場分庁舎）

また、7月には御船町へのお出張相談会も実現しました。みなし仮設や被災住宅で過ごす方々の現実にあい、活動の意義を感じました。

実は、私個人の仕事にも偶然が重なり驚いたことがあります。

昨年7月6日、「インテリアフェスティバル in 九州」（インテリア産業協会主催／福岡西鉄グランドホテル）で特別講演をしました。通常、講演の依頼は前年にいただくことが多く、その頃にタイトルを決めます。今回もそうで、『自然・大地・人間の「気」の調和による設計&インテリアデザイン』と題して「東洋の環境思想」について話することにしました。



インテリアフェスティバル in 九州
（2016. 7. 6 西鉄グランドホテル）

【自然・大地を生きたものとして捉え、その土地に備わっている「気」という生命エネルギーがそこに住む人の人生に大きく影響する。更に、「気」の流れは岩塊一つ動いただけでも大きく変わってしまう。】何というタイミングなのかと思いました。今回の地震は岩塊どこ

か恐ろしいほどの多量の岩塊、地盤が暴れました。まさしく、私自身が2ヶ月前に体験した現実であること。皆様に話をしながら、自然という非常に動的な「気」エネルギーが人生に影響を与えるという思想がひしひしと心に沁みたくを覚えています。

講演の準備のために香港に行きました。地震後まもない5月10日です。熊本県香港事務所と約束の日です。空港に降り立ちホテルまでの移動中、車窓からの景色に思わず「ドキッ」としました。もう何度も訪れていて見慣れた香港の景色だったのにです。揺れの体感、倒壊した建物の記憶がよみがえったのでしょうか。新期造山帯でない地体構造だと分かっている、山の上までに聳え立つビル群を見て、やはり心穏やかではありませんでした。



中環（セントラル）／香港

あとどのくらいかかるのでしょうか。いつもお城が見えて自然豊かな平安な熊本に戻る日を心より望みます。

TOPICS 情報

第67回 通常総会開催のお知らせ

日時：平成30年6月15日（金） 15:00～

場所：KKRホテル熊本



甲斐 健一

■株式会社 甲斐構造設計事務所

くまもとアートポリス建築展 2017 東京シンポジウムに参加

くまもとアートポリス（以下、KAP）は、熊本県独自の文化的事業として、今年で30年目を迎えています。KAP 建築展 2017 は、県と県建築関係団体等で作る実行委員会（建築士会から委員として中尾会長が参加）が、4年に1回開催し、今回の開催テーマを、「一緒に考え、一緒につくる」と題し、熊本地震からの「すまいの再建」に繋がる各イベントが予定されています。

9月2日には、KAP 建築展 2017 のキックオフイベントとなる東京シンポジウムが東京都内で開催され、熊本地震で仮設団地に整備された集会施設「みんなの家」をテーマに、KAP の伊東コミッショナーや妹島和世氏など総勢16名の建築家が登壇し、意見を交わしました。

昨年、私は、KAP 事業で西原村小森仮設団地内の「みんなの家」を熊本県建築士会青年部会の設計者として、設計に関わり、また、同地区には建築士会の他、県内の JIA 日

本建築家協会及び建築士事務所協会の設計者も参加したことから、本シンポジウムには、地元熊本の代表者として、山室氏、原田氏と共に参加しました。



■東京シンポジウムの会場風景

テーマ「みんなの家、その先へ」シンポジウムは、伊東コミッショナーが司会進行を行い、パネルディスカッション形式で、各テーマに沿って、熊本地区の私達、東北地区のみんなの家の設計者及び熊本の復興住宅設計者の方々による発表がありました。その中では、

被災者と共に建築を作ることの難しさや復興事業へ参加できることの有難さ等々の意見があり、シンポジウムをとおして、参加者の皆さんと今後の復旧・復興、また、公共建築のあり方を考えることができました。

熊本地震を経験した設計者として、復旧・復興の現状を発信することができ、また、被災者が希望をもって「すまいの再建」を進めていくための道筋を皆さんで考え、つくることの手助けができたかと思えます。

また、未だ被災地には、継続的な支援が必要であることも再認識できました。

最後にこのような機会を与えて頂いた KAP の関係者の皆さまに感謝するとともに、今後のイベントについても応援致します。



■地元建築家を代表して3名が登壇（左から原田氏、山室氏、筆者、司会は伊東氏）

発行：（公社）熊本県建築士会 編集委員会

藤本国範 堺武治 田尻昭久 田中章友 中島祥貴
村上裕介 松村志磨子 宮本朋子